



◎内務省土木技術首脳部の大變動

巷間屢々噂があつた内務省土木局技術界の異動は愈十一月七日發表された、勇退せられたのは青山技監、木津横濱福田仙臺、牧野下關各土木出張所長、物部土木試験所長の五氏で榮轉せられたのは、辰馬技師、佐藤技師、谷口技師、春木技師、田淵技師、笈技師、三浦技師、藤井技師で其の七氏の略歴は左之通である。

辰馬 鎌 藏氏

- 一、明治十五年二月 兵庫縣武庫郡大社村にて生る
- 一、同四十年七月十日 京都帝國大學理工科大學卒業
- 一、同四十二年二月十日 内務技師、大阪土木出張所勤



務省東京土木出張所勤務

- 一、昭和三年四月三十日 内務省名古屋土木出張所長

- 一、同九年五月十一日 内務省東京土木出張所長

- 一、同十一年十一月七日 内務技監

佐藤 利 恭氏

- 一、明治二十一年二月 東京市本郷區駒込動坂町に生る

- 一、大正三年七月十一日 東京帝國大學理工科大學土木工

學科卒業

- 一、同六年九月七日滋賀縣技師

- 一、同九年十月二十八日 内務

技師

- 一、昭和十一年十一月七日 内



務

- 一、同四十四年四月十一日 内

務省下關土木出張所勤務

- 一、同年五月八日陸軍工兵少佐

- 一、大正五年二月二十四日 内

務省土木局第二技術課長

谷口三郎氏

- 一、明治十八年四月 廣島縣佐伯郡五日市町に生る
- 一、同四十二年七月十日 東京帝國大學工科大学土木工學科卒業

- 一、同十一年十一月七日 内務省東京土木出張所長
- 一、明治十七年十月 島根縣松江市に生る
- 一、同四十三年七月十一日 東京帝國大學工科大学土木工學科卒業

- 一、同四十三年六月二日 北海
- 道廳技師

- 一、同四十四年八月八日 内務技師 東京土木出張所勤務



- 一、大正四年七月三日 内務技師
- 一、同五年八月七日 鐵道院技師兼任

- 一、昭和七年四月十五日 内務省横濱土木出張所並東京土木出張所勤務

兼務

- 一、同六年三月三十一日 内務省土木局調査課兼技術課
- 一、同七年五月二十二日 内務省大阪土木出張所勤務
- 一、昭和四年四月三十日 内務省土木局勤務
- 一、同五年八月二十二日 拓務技師兼任
- 一、同九年五月十一日 内務省土木局第一技術課長
- 一、同六年六月十四日 鐵道技師兼任

淵田壽郎氏

- 一、同十一年十一月七日 内務省横濱土木出張所長
- 一、同九年九月十五日 内務省東京土木出張所勤務
- 一、明治二十三年三月 廣島縣佐伯郡大竹町に生る
- 一、大正四年七月九日 東京帝國大學工科大学土木工學科卒業
- 一、同七年八月十二日 京都府技師
- 一、同八年十一月二十一日 内務技師内務省秋田土木出

張所勤務

- 一、同十三年十一月三十日 内務省大阪土木出張所勤務
- 一、昭和十一年十一月七日 内務省仙臺土木出張所長

算 賦 治 氏

- 一、明治十八年三月 東京市淀橋區戸塚に生る
- 一、同四十五年七月十日 東京帝國大學工科大学土木工

學科卒業

- 一、大正五年一月二十五日 内務技師、東京土木出張所

勤務

- 一、同七年九月二十六日 内務省土木局第二技術課勤務
- 一、同八年五月十三日 北海道廳技師兼任
- 一、同年五月十六日 本官及兼官依願免官

- 一、昭和二年五月二十三日 滿洲國國道局に招聘せらる

- 一、同十年七月三十一日 内務技師、名古屋土木出張所

勤務

- 一、同十一年十一月七日 内務省神戸土木内出所長

三 浦 七 郎 氏

- 一、明治二十二年十月 佐賀縣佐賀郡東與賀村に生る

- 一、大正三年七月十日 東京帝

國大學工科大学土木工學科

卒業

- 一、同四年十二月二十七日 北

海道廳技師

- 一、同十年三月三日 病氣に依り依願免官

- 一、同十年九月二十二日 内務技師

- 一、同十二年九月八日 臨時震災救護事務局事務官

- 一、昭和四年四月二十五日 内務省土木試驗所勤務

- 一、同六年十月二日 工學博士の學位を受く

- 一、同十一年十一月七日 内務省下關土木出張所長

藤 井 眞 透 氏

- 一、明治二十二年一月一日 宮崎縣北諸縣郡都城町に生

る

- 一、大正三年七月十日 東京帝國大學工科大学土木工學

科卒業



一、同五年八月十六日 兵庫縣
技師

一、同六年九月二十五日 明治

神宮造營局技師

一、同十二年九月八日 臨時震

災救護事務局事務官

一、同十三年十二月十九日 内務技師兼任

一、同十五年三月二十日 内務省土木試驗所勤務

一、昭和十一年十一月七日 内務省土木試驗所長

細田 徳 壽 氏

一、明治三十七年八月五日 茨城縣水戸市上市仲町に生

一、大正十一年 茨城縣立商業

學校卒業

一、昭和三年三月 東京帝國大

學法學部政治學科卒業

一、同三年十月二十二日 内務

屬 (土木局港灣課勤務)

一、同七年一月十八日 地方警視 (秋田縣警察部勤務)

一、同十年一月二十六日 神奈川縣警察部警務課長

一、同十一年七月三日 内務事務官 (土木局道路路課港灣

課勤務)

◎勇退諸氏を偲ぶ

年齒尙春秋の身を以て後進に其途を披く爲めに勇退されし諸氏の人格及技能は我國土木界の現情に照らし愈々奮勵指導の任に當られんことを思ふのであるが官界の仕事は後進に譲りて民間に出て社會人として更に活動せらるることとなるは邦家の爲一段と貢獻せらるゝに至るべきを思はせらるるのである希は自愛せられんことを、今諸氏の經歷を見るに青山士氏は明治十年九月靜岡縣磐田郡中泉町に生れ同三十六年七月東京帝國大學を卒業せらるゝや遠く亞米利加に渡りて鐵道會社に就職して實地見學せられ、歸朝の後明治四十五年二月内務技師に任せられて以來東京土木出張



所に勤務荒川改修工事に従ひ後新潟土木出張所長となり内務技監となり内務土木技術官として人格的模範者となり技術的指導者となり淬勵されたるの功績は忘るべからざるものがある。木津正治氏は明治十五年二月富山縣高岡市に生れ明治四十年七月東京帝國大學工科を卒業せられ翌々年の四十二年春内務技師となり爾來大阪土木出張所勤務に門司改良工事主任に下關土木出張所勤務に下關門司兩港改良工事掛に精勤、昭和七年四月横濱土木出張所長となられ、内務土木界に在ること實に十有八年間であつた。牧野雅樂之丞氏は明治十六年一月宮崎縣登米郡佐伯町に生れ明治四十二年七月東京帝國大學工科を卒業同四十四年十二月内務技師となつて東京土木出張所に土木局に土木試験所に震災救護事務局事務官に土木試験所長に或は復興局に轉勤昭和九年五月十一日下關土木出張所長となり今日に至つた土木官界に在ること二十有六年其功績決して尠からず。福田次吉氏は明治十九年八月石川縣金澤市に生れ明治四十二年七月東京帝國大學工科を卒業同四十四年四月内務技師となり東

京土木出張所勤務となり昭和三年一月に土木局第二技術課長に同九年五月仙臺土木出張所長となりて今日に及ぶ在官は二十有六年汝々として其職務に盡されたことである。物部長穗氏は明治二十一年七月秋田縣備北郡荒川村に生れ同四十四年七月優秀ある成績を以て東京帝國大學工科を卒業大正元年内務技師となり翌年東京土木出張所に勤務同九年四月には論文を提出工學博士の學位を授けられ四十五年二月東京帝國大學工科大學の教授を兼ね尙地震災研究所員となり同年五月には第六講座を分擔し同月土木試験所長となれ今日に至つた其在官は二十有五年に及び土木技術界に於ての研鑽の功績尠ならず。

◎國道改築促進陳情

國道の改築が國策としての緊急事業たるは敢て言を俟たない所であつて曩に一號國道視察に依つて一段の奮發し改築を要するのは視察員一同の知悉する所であるが静岡縣下關係地方町村長及豊橋市長より本會に提出された陳情書は

次の如し。

陳 情 書

國道第一號線静岡縣庵原郡富士川以西清水市ニ至ル區間ハ京濱附近ニ次デ最交通頻繁ナル區域ナルコトハ夙ニ貴會ノ御認メノ通りニテ最近ノ調査ニ據レハ自動車ノ往復ハ一日(自午前六時至午後十二時)九百臺ニ垂ントスル實情ニ有之從而各種ノ事故ヲ頻發シ交通上、産業上、衛生上、將又國防上之ガ改良擴築ノ急ヲ要スルコト言フ俟タズ本會ハ連年内務大藏兩御當局ニ對シ衷情ヲ陳ベ來リ候處政府ニ於カレテハ幸ニ痛切ナル願意ヲ採擇セラレ既ニ右區間ノ略ボ半ノ改良工事ヲ御實施ニ相成地方民ハ其恩惠ノ大ナルニ感激致居次第ニ俟得共更ニ交通量ノ激増シツツアル殘余ノ區間並ニ鋪裝未完成ノ部分ニ對シ此際繼續事業トシテ工事ヲ御實施相成様貴會ノ格別ナル御配慮御後援ヲ相仰度、今回第一號路線ノ實狀御視察ノ機會ヲ幸トシ特ニ及悃願候也

昭和十一年十月十七日

静岡縣富士川國道改良期成同盟會
袖師間

代表者

富士川町長 若 槻 正 作
蒲原町長 志 田 孝 而
由比町長 石 川 烈 三
興津町長 田 中 秀 夫
袖師村長 柴 田 忍

道路改良會殿

國道改築促進ノ儀ニ付請願

人口ノ都市ニ集中スル近代ノ趨勢ニ伴ヒ貨物ノ集散又逐日其數ヲ増加シ自動車其他ノ急速運輸車ノ縱横ニ疾驅シツ、アル現今都市ヲ連繫スル國府縣道ハ必須ノ交通機關ニシテ之ヲ時代ニ適應スヘク改築スルハ最モ緊急ナル重大事業ニシテ國運ノ發展産業ノ開發上一日モ等閑ニ附ス可ラサルハ土木國策上等シク識者ノ認ムル所ナリ

茲ニ東京市ヨリ神宮ニ達スル國道一號線ハ我國道中ニ於ケル重要幹線ニ當リ恰モ其中央ニ於テ本市ヲ縱斷スルカ故ニ本路線ノ隣接都市濱松岡崎兩市ヲ結ブ唯一ノ要路ニシテ都市計畫區域内總延長一二八六五米市内九三九三米ニ亘リ蜿蜒トシテ松並木及市街地ヲ通過シ其間國道及府縣道十數路線ヲ分岐シ遠ク靜岡長野岐阜ノ三縣ニ連絡ス

往時本線ハ東海通トシテ車馬ノ交通頻繁ニシテ本市亦五十三次ノ一驛ナリシモ近時國運ノ隆昌ハ產業ノ發展ト共ニ急激ナル自動車運輸ノ發達ハ愈々幅員ノ狹隘ナル該國道ノ交通上ニ一大脅威ヲ與フルニ至レリ

東方ヨリ本市都市計畫區域二川町ニ入り郊外ニ屬スル松並木ノ風致林地帯ハ幅員比較的廣大ニシテ一部改修ヲ加ヘラレタル箇所アリ勾配緩ニシテ屈曲少ク縣ニ於テ既ニ一五五〇米簡易鋪裝ノ施工ヲ見ルト雖モ一度市街地ニ入レハ封建時代ノ街衢ハ依然トシテ舊態ヲ存シ沿道ニハ家屋櫛比シテ建設セラレ大厦高樓巍然トシテ聳ヘ全ク待避ノ餘地ナキノミナラス市街地東部ニ於テハ圖面表示ノ如ク僅々百二十

米ノ區間ニ於テ内角八十度ヲ出テザル屈曲部四ヶ所ヲ有シ然モ幅員四間未滿ニシテ廣場ノ設備ナク道路並ニ街路構造令ヲ隔ルコト夥シク屢々車馬ノ衝突自動車ノ人家ニ突入スル事故ヲ惹起シ人命ニ危險ヲ感スル慘事ヲ繰返シ然モ交通量ハ相等繁ク朝夕ノ混亂ハ名狀スヘカラスシテ步行ノ自由ヲ失ヒ其ノ危險ナル狀態ハ到底正視スル能ハス次ニ中央部

ニ於テ延長百五十米ニ亘リ勾配二十四分ノ坂路ヲ有シ重量ノ運搬ニ頗ル困難ヲ感シツツアリ然モ其缺點ニ當リテハ直角ニ屈曲ヲナスガ故ニ不便甚シク更ニ豊川ヲ越ヘ下地町地内ニ入りテハ府縣道豊橋豊川線ト丁字形ニ直角交叉シ遠ク後方地帯長野岐阜兩縣ヨリ發スル貨物自動車ノ交通量ニ在リテハ市内第一位ヲ占メ其他ノ車馬步行者ニ於テハ逐年加速度的ニ交通量ノ激増ヲ來タシ然モ幅員就モ狹少ナル爲所謂交通地獄ヲ現出シツツアル狀態ニシテ市民ノ等シク困惑スル所ナリ今災害時ニ於テ直接受クヘキ地元ノ慘禍ハ暫ク問ハストナスモ軍用並ニ產業ニ資スル大幹線トシテ日常蒙ル市民ノ損失ハ勿論日本全土ヲ縱斷スル陸路トシテ國家的

見地ヨリ大觀スル時改築ノ促進ニ依リテ以テ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ福利ヲ増進スヘキ終局ノ美果ヲ贏得スル様御配慮相成度此段謹ンテ請願候也

昭和十一年十月十八日

豊橋市長 神戸小三郎

道路改良會長水野鍊太郎閣下

(圖 面 略)

◎第二調査部打合せ

本年六月二十七日フランス、パリの國際道路會議事務局常置委員會で決定した次回オランダ國ハーグに開かれる國際道路會議々題審議の件につき十一月十九日午後四時半より鐵道協會に左記諸氏參集して審査の結果是非調査の要あるを認め第一より第六に至る各議題毎に内務、鐵道、陸軍、東京、大阪兩府市其他専門家を煩し調査研究することゝなし大様の人選につき打合せをなし午後八時散會した、出席者は藤井内務省土木試験所長(第二部委員長)、佐藤内務

省第二技術課長、武若内務事務官、吉江警視廳交通課長、細田内務事務官、榎木内務技師、金子府土木部長代松田技師堀東京市道路監理課長代濱田技師、金森工學博士及都筑幹事にして各議題は左の通りである。(都筑)

○議題第一

第一部 道路築造並に維持に關するもの

A ミユニヘン會議後に於てセメントを使用する車道鋪裝工の進歩

B 煉瓦鋪裝

C 鑄鐵、鋼、ゴム等の如き特殊材料による路面工

○議題第二 ミユニヘン會議後に於て車道築造及維持に用

ひたる

A タール

B アスファルト

C 乳劑

の準備及使用に關する進歩

注意

議題第一及第二は街路に於けるものと同様に新しき地方又は開發の過程にある國土にも適用する

第二部 道路の使用、交通整理及行政

○議題第三 道路に於ける交通事故

A 統計表の基準及國際的統一

B 事故の原因の考究方法並にその軽減の方法

○議題第四 道路に於ける各種の交通の分離

車道（一方交通と複式交通）

自轉車道

歩行者道

郊外幹線に於ける道路の取付、駐車場、道路交會點

と交叉點

A 之らの用意施設が適當なるや否やの狀勢の研究

B 自動車道に對する適用

第一部と第二部との聯合

○議題第五 次の見地から見たる車道鋪裝の研究並にその

標準化

A 滑り度又は路面波並に横滑りに對する抵抗

B 照度 (Light Value) 又は路面の光り吸收率 (人工

照明の場合)

○議題第六 道路路床の研究

A 路床土の性質の決定。試験方法並に試験器械

B 道路 (基層と路面層) 築造並に維持に及ぼす路床

土の影響

右會議は一九三八年六月十九日を以て開會、七月三日閉

會式を行ふ豫定

×

×

◎内務省、道、府、縣、土木技術官一覽表

昭和十一年十一月二十日現在

内務省土木局

技監

第一技術課長 辰馬 鎌藏
第二技術課長 鈴木 雅次
第三技術課長 佐藤 利恭

赤木 正雄
田中 八百八
高橋 嘉一郎
宮本 武之輔
富永 正義
山下 輝夫
河口 協介
砂治 國良
内村 三郎
末森 猛雄
嶋野 貞三
加藤 伴平
佐土原 勳
藏重 長男
水谷 鏘

内務省土木試験所

試驗所々長

東京土木出張所

大石 義郎
菊地 明
中尾 光信
鈴木 清一
小澤 久太郎
富樫 凱一
伊藤 剛
上ノ土 實
藤井 眞透
山田 元
青木 楠男
西川 榮三
高田 昭
松尾 春雄
松村 孫治
島田 八郎

所長 谷口 三郎

山田 正平

金 森 誠之

川上 六郎

岩澤 忠恭

土木事務官

境 隆雄

遠藤 守一

仙臺土木出張所

德田 茂

森 經 義保

所長 田淵 壽郎

上山 鐵之助

三島 卯四郎

安藝 皎一

阿部 一郎

伊藤 弘信

野瀬 正人

金子 征

池田 徳治

宮田 隆一郎

河野 正吉

磯崎 壽

福來 總十郎

秋草 勳

庄司 陸太郎

横濱土木出張所

内務屬 小松 原謙一

前園 千代次

所長 春木 節郎

加藤 正晴

新潟土木出張所

浦 島 孚

深井 浩三

末松 榮

土木事務官 籙谷 英作

黒田 靜夫

所長 伊藤 百世

中村 政男

小野 龍一

名古屋土木出張所

土木事務官

所長

- 堀 鎮 治
- 伊吹正紀
- 金子南瀧
- 早田英夫
- 杉本培吉
- 平尾勝
- 鋤柄小一
- 大鹽政治郎
- 鷺尾蟄龍
- 上關德也
- 大島太郎
- 山田三郎

土木事務官

- 宮戸 繁
- 西山忠一
- 橋本規明
- 三池鎮浪
- 湯本久右衛門
- 千田正重
- 阿部清紀
- 西尾辰吉
- 金古久次

大阪土木出張所

所長

土木事務官

神戸土木出張所

- 山岸安二
- 萩原基治
- 柴田辰之進
- 坂上丈三郎
- 金丸正春
- 山東功
- 和氣覺次郎
- 湯山熊雄
- 井上清太郎
- 小野道人
- 白井一郎
- 工藤久夫
- 諸井英一
- 西部友吉
- 小林眞一
- 水野高明
- 久世秀明
- 中澤安藏
- 兒玉信治郎

下關土木出張所

所長

土木事務官

- 祝井貞雄
- 佐藤寛政
- 薄池浪統
- 羽賀正義
- 柳澤米吉
- 萩野濱
- 後藤登
- 松久正次
- 川上留吉
- 寛城治
- 三浦七郎
- 塚本積
- 田中隆作
- 住田秀
- 松尾守治
- 村野爲次
- 竹下巖之助
- 江崎善愛
- 片岡謙
- 芥川暉雄
- 青木保雄
- 大野博

北海道

(以下道各府縣其順位不同)

土木部長

- 二見直三
- 神保金衛
- 保原元二
- 中村廉次
- 齋藤靜脩
- 福岡五一
- 杉森文彦
- 高田善藏
- 平尾俊雄
- 町田利臣
- 小松悌治
- 吉川宥一
- 山岡信吾
- 叶岡磯
- 中島淺五郎
- 前田一三
- 田中寛二
- 原田忠次
- 笠原宏
- 本間仁
- 中道峰夫

馬島進
 細祐次郎
 檜山千里
 淺尾基彦
 鹽塚重藏
 猪木季雄
 池田一男
 山岡茂
 永井雄毅
 高橋勝衛
 宗石盛始
 三戸義夫
 調所武光
 岩岡武博
 小川護二
 樋浦大三
 安藝眞孝
 大坊政源
 細江直矢
 土谷實
 蘆田英太郎
 一ノ瀬吉次
 森良介
 大西朝男

東京府

土木部長

金子源一郎
 上村爲人
 關谷清助
 左右田友三郎
 小島達太郎
 尾崎義一
 佐野俊男
 大岡禮三
 田沼實
 河合清二
 藤田次雄
 野中信三
 伊藤信吉
 田中茂實

皆川久
 仁木信恭
 關昌作
 宮前喜藏
 小川勝
 小崎弘郎
 倉島一夫
 坂下芳男

京都府

土木部長

岩崎雄治
 安井與三八
 原田民部
 五十嵐作榮
 松田憲二
 平野重市
 吉田光太郎
 長嶺要
 林八次郎
 後藤久吉
 中間友義
 矢野勝正
 和田恒廣
 大野唯糊

梅澤景秀
 松田勘次郎
 綾龜一
 奥田秋夫
 野原眞孝
 水谷駿一
 竹内敏雄
 徳弘澄重

大阪府

土木部長

三輪周藏
 井下勝藏
 上床義隆
 田中俊一
 内田武三
 光藤康明
 遠藤正巳
 竹村俊一
 若林弘美
 佐藤愛次郎
 高橋惣市
 源川豐一郎
 長久保俊夫
 花鳥義一
 稻浦鹿藏
 前田玄二
 小山猛三
 井森勇
 桐谷一男
 兼重信雄
 池田雄二

神奈川縣

土木部長

和田重辰
秋葉俊次
氏家文彌
武田義明
高木季雄
目黒清雄

兵庫縣

土木部長

吉岡計之助
尾内庄吉郎
松田愛太郎
井上良一
永井重雄
寺本伊三郎
堀内陸郎
高野太郎
今井九三
多田隈保次
高田貞一
高宮正彦
小池正
中村滿輔

長崎縣

土木課長

山崎亮三
梅原達也
近藤勇
高橋正久
淺野茂

新潟縣

土木部長

淺見洋
森山勝之助
中村又一
是枝實
坂井專一
井尻忠義
武井篤

荒木榮二
年光十一
藤澤喜作
神谷儀明
井越晉
山田長好
大野臺助
佐藤哲夫

埼玉縣

土木課長

田中精一
吉江定雄
小野德壽
飯田正熊
平松頼夫

群馬縣

土木課長

竹内常八
高堀育三
永矢三郎
松居榮二
平尾鹿之助
八木三男
坂本吉次
三宅第三郎
佐藤繁次

平川保一
三瓶文夫
關端正太郎
木村儀四郎
木村融
松岡剛夫

千葉縣

土木課長

久保田千里
荒井力
佐藤信一
佐藤盛亮
伊藤美代治

茨城縣

土木課長

宮崎正夫
船崎惣之助
重田勇助
佐藤辰男
今泉佳三郎
松田博文
鈴木信一
折坂理五郎
石黒重國
和田秀夫
猪瀬寧雄

横山喬
池内直義
守屋孝秀
佐藤義正

栃木縣

花井卯一
成瀨正成
田中興六
三浦瀨

西岡篤太郎
笠井孫一郎
内林永昌
成田謙治
永田達彌
高田廣作

靜岡縣

江口辰五郎

土木課長

西義一
青木信夫
原川康

滋賀縣

大塚衛

土木課長

兵藤直吉
友岡正介
重松才吉

土木課長

春藤眞三
岩淵英治郎
本多憲千代
磯部磯七
小村宏

愛知縣

土木部長

山口十一郎
仲本利夫
山極二郎
志田順作
小坂忠一
河村英雄
奥田助七郎
飯田一實
大塚俊夫
小塚川清
長谷川旭
三枝旭
金津尙一
服部俊一
笠原昌泰
長久保信夫

奈良縣

土木課長

緒方虎之助
廣石一匡
須藤繁基
三浦久藏
駒田普明
千葉秀雄
熊本政晴

岐阜縣

土木課長

櫻井哲三
伊藤千代太郎
吉田誠之
草川清康
丹羽武雄
田中孝
不破壽親
平井寛
水野尙夫
岡本但夫
戒能長次郎
堀武

三重縣

土木課長

上井彙吉
豊田勝藏

山梨縣

土木課長

田寺元治
松原正喜
飯田乙彦
古田泰介
木村弘太郎

長野縣

土木部長 土肥憲二郎

後藤 新

染谷 寬一

小澤 潔

西澤 美則

有馬 博雄

中島 武

石井 讓

奥崎 益美

加藤 平吉

楠仙 之助

大谷 英

川口 正彌

宮城縣

土木部長 大石 巖

石田 清

富田 伍鹿

山本 幸夫

相澤 包助

大成 又五郎

三橋 寬之

福島縣

土木課長

伊藤 茂
高木 堅護
木村 又治

河合 清
松浦 孝一
遠藤 佐五右衛門

安部 喜藏
金澤 清次郎

木村 政衛
五十子 恭三
黑岩 敏治

土木課長

上野 節夫
本正 信藏

島山 英三郎
佐藤 清治

奥田 豐吉
坂本 昇

佐藤 清見
佐藤 東次郎

青森縣

土木課長

松浦 康秋
小里 房次

阿部 貞雄
澁谷 和夫

長澤 健太郎
德永 軍次

山形縣

土木課長

熊田 隆治
田中 長吉

西條 宇助
田原 秀男

杉原 俊策
小川 靜

長谷川 四郎
左司 儀夫
近藤 鉦之助

秋田縣

土木課長

高田 廣
山田 安三

田中 義康

福井縣

土木課長

大槻 源八
池邊 正雄
近藤 官藏
日野 官藏

谷 堅
吉田 與三右衛門

清水 綱賀
猿谷 新太郎

八木 茂彌

石川縣

土木課長

杉山 宗次郎

小林 庄平
鈴木 邦彦

屬 秀三
向井 太作

柳井 三郎
佐々 信治

富山縣

土木課長

關谷 新造
西東 慶治

森 四郎

大島省三郎

小池啓吉

近藤鍵武

若林正次

長澤俊雄

伊藤令二

水野鉦三

岡山縣

土木課長

河戸萬吉

門司武久

菊池忠雄

副島善雄

飯島馨之助

山本徳三郎

堀川一太

山口徳兵衛

園村圓次

成松清雄

古川一郎

今野榮次郎

坂部素夫

山本勝也

今井虎次

橋本芳太郎

荒木忠義

津下修一郎

山口縣

土木課長

松本雄

朝倉廣太郎

栗原斧衛

佐々木銑

鈴木昇一

森十郎

鈴木健二

平佐悟一

内林達一

橋川保

堀田清

前田豐策

久保田秀雄

別府道治

金馬庚子郎

花田次郎七

徳島縣

土木課長

根井友信

山本廣一

岡本延喜

中山光治

吉積勝人

五藤豊吉

堤榮左衛門

香川縣

土木課長

井關正雄

武井金二郎

田中太郎

大西保夫

鳥取縣

土木課長

三宅發造

安達晴雄

竹島清一

仁科太郎

吉田宅次

門澤利三

大林勇治

重田勝浩

深谷克海

廣島縣

土木部長

長谷川勝伍

大久保正治

和歌山縣

土木課長

宇田忠三

前田長治

奥山茂

後藤季總

愛媛縣

土木課長

千葉芳

永戸榮明

宮内常憲

青野隆次

林眞治

柴田明治

鳥取縣

土木課長

寺田甫

佐々木齋治

延本貞治

高知縣

土木課長 岸田正一

島田善稻

大野謙三

青木淳吉

大分縣

土木課長

坂本一平

後藤龍雄

小堀秀次

岩井鐵二

大神啓次郎

堤格三

後藤安之

河窪五月

和田嘉六

細川英二郎
岡野一
鴛崎文雄
宮崎義一
小林徳司

熊本縣

土木課長

上田柳一

樽谷萬治

綱谷安次郎

小引掌

高橋經徳

川島輝猪
渡部彌作
南里彌作

鹿兒島縣

土木課長

坪井豊彦

松枝久太郎

永戸三郎

只隈勳

古川秀盛

大江勘太郎

齋藤弘喜

吉松五男
羽田巖

福岡縣

土木部長

後藤龍雄

小堀秀次

岩井鐵二

大神啓次郎

堤格三

後藤安之

河窪五月

和田嘉六

土木課長

大島六七男

露口秀夫

市橋一男

奥平次郎

井上太郎

是石登

宮崎縣

土木課長

城戸鑽吉

長尾貞作

中島忠次

林長太郎

佐分利三雄

沖繩縣

土木課長

中忠義

渡久地政達

遠藤竹三郎

鈴木進一郎

◎内務省土木局々長、技監、各課長、事務官

(昭和十一年十一月二十日現在)

岡田文秀	局長	河道	各課長	道路課事務官	河川課事務官	港灣課事務官
辰馬鎌藏	技監	港灣	第一技術	細田徳壽	澤重民	嵯峨根達雄
		新居善太郎	石井政一	(兼港灣)	橋本甚四郎	
		佐藤利恭	藤木雅次	安田正鷹		

地方廳土木部課長、道路課長、道路並土木主事

(昭和十一年十一月二十日現在) ○印八部長

道府縣名	土木部課長	道路課長	道 路 主 事	土 木 主 事
北海道	○中村忠充	町田利臣	北村 與松	齋藤 昂一
東京都	○金子源一郎	上村 爲人	高澤義智・林田芳徳・板倉聰一・田村三郎・福澤善司	芝 田 孚
大阪府	○岩崎雄治	平野 重市	丹羽氏行(土兼)・戸田廣次郎	藤田謹二・光吉忠治郎
大 阪	○三輪周藏	長久保俊夫	河野徳太郎・田口高重郎・波若敏郎	藤井彌太郎・山田正弘
神奈川	○和田重辰	目黒清雄	原田進勇	田邊 信一
兵 庫	○吉岡計之助	梅原達也	阿曾貫助	石村 芳夫
新 潟	○荒木榮二	飯田正熊	清野慶藏	窪田國三郎
埼 玉	竹内常八		眞柄滿一郎	
群 馬	平川保一		平尾 敏(土兼)	
茨 城	宮崎正夫		青木信愛	津久井 留五郎
栃 木	横山 喬		川又辰三	島 村 信
奈 良	春藤眞三		瀧川勸則	野上 義雄
三 重	緒方虎之助		眞田正一	山 本 暢
愛 知	上井兼吉		滋井善十郎(土兼)	深野小次郎
靜 岡	○山口十一郎	小坂忠一	倉田 清	村田佐太郎
山 梨	○西 義一	高良末綱	星野安次郎	鬼頭光一
滋 賀	田寺元治		齋藤彦太郎	拓植 國藏
岐 阜	兵藤直吉		藤田榮司(土兼)	
長 野	櫻井哲三		赤木忠晴	桂 九 一
宮 城	○土肥憲二	後藤 新	岩島利六	安岡九十九
宮 城	○大石巖	山本幸夫	貴地邦春夫	楫 謙 助
			船越久吉	村上 正

沖鹿宮熊佐大福高愛香德和山廣岡島鳥富石福秋山青岩福
兒 歌

繩島崎本賀分岡知媛川島山口島山根取山川井田形森手島

中坪城上古大坂岸千井山後鈴○長飯寺三關杉谷高熊松上河
井戶田賀島本田葉關本藤木○長谷島田宅發新造杉山宗次郎谷高田熊浦野合
忠豐鑽柳久六七男平一男雄一總二伍助甫造造郎堅廣治秋夫清

細川英二郎
佐々木 銑

丹野正人
村野清一(土兼)
岡野清三郎
東海林半三郎
柴引幾馬(土兼)
吉田竹次郎
小西民之助
柳樂義雄
平野德松
枚田利一郎
安村正人
川原義任
眞家美男
平田沖正(土兼)
堀内正重(土兼)
森山健次郎・市丸西彦
大津壽
大島正之(土兼)
大野喜一郎
谷川高德
吉村桂造
松浦忠平

阿部治英
川村庄五郎
利市庄作
内藤元次
近藤 攻
橋本隆義
服部久太
武廣類介
池田晋一
佐久間五郎
服部 要
吉田伊三郎
實崎順作
鈴木佐太郎
森本世外
淺野 淳

内務省道路課内務屬

眞木	德崎	齋藤	根本	檜垣	島田	星野
英香	兵吉	武命	正男	國松	毅子	郎
小田	藤原	齋藤	香取	山崎		
田口	徳之	藤原	謙吉	清吉		
二章	助	章				
寛郎						

内務省第二技術課道路擔當内務技手

前澤	遠藤	村松	加藤	鹽田	藤田	神澤
眞一	義順	得男	啓四	桂一		
浩一	眞一	順一	男四			
篤朝	奥村	金子	永島	住谷		
朝太	村民	子明	島國			
太郎	夫六	村六	登村	信		

○近刊圖書

一、日本都市年鑑 東京市政調査會刊行

東京市調査會では昭和五年以來都市に於ての諸事象を調査し國政或は地方政治の上に將又都市民の實生活の上に其の基礎的材料を蒐集整理して之を公にし茲に第六回目的年鑑を世に送り出された、就いて見るに一回は一回より編纂の經驗に徴して集録の材料を精選整理し其の苦心の跡歴然たるものがある、英米獨等の都市年鑑と並び稱せらるゝに至りたることは故なきにあらずである、試みに其總説に述ぶる所を見るに地方制度改革問題、臺灣地方制度の改正、第六十九特別帝國議會に於ける都市問題關係立法、選舉肅正運動、東京市政の監察並に地方行政監督機構の強化、東京市政監察報告、都市關係諸會議に述及して苟くも都市に關心をもつ者に取りては注意を喚起するの事項をかゝげて居る又附録として都市問題關係重要參考文献及全國都市一覽圖を添付せるが如き其用意の周到なるを思はせらる、寛

に都市研究者に取りては必須的文献たるを證して餘ある、但出來得るならば各都市の沿革の概要をも掲載され都市發達の過程を知るの資料を供せられんことである。

内務技師、工學士 西川榮三著

一、土木建築 工事材料 瀝青乳劑

共立社刊行
定價三圓八拾錢

都市は勿論地方に至るまで近代施設としての道路、飛行場滑走路、校庭、停車場構内、工場の床等の鋪裝、其他土木建築工事等に於て膠着材、防水劑として最も廣く用ひられるのは、瀝青乳劑である、鋪裝用瀝青質材料としては、(1)アスファルト、(2)タール、(3)乳劑とがあるが乳劑はアスファルト或はタールの如く使用に際し加熱する恐なく常溫に於て簡易に施工し得る爲め益々需用増加の趨勢を見る、本書は此材料の語義及分類成立要件、生成法、其他瀝青乳劑の全般的説明を簡明に記述したるもの、特に著者は大正八年東大工科大學應用化學科を卒業して直ちに三菱鑛業會社に入社して鑛業の實地研究を遂げ大正十一年四月内務技師となり土木試驗所に勤務して日夕土木工事材料の研

究實驗に従事し斯界に於ける一權威者である、本書は土木建築關係技術者は勿論工事請負業者に取りても必讀せざるべからざる稀有の名著述である。

一、土木 交通 監督要項 地方事務研究會發兌

本書は内務省土木局道路課勤務徳崎香氏の著述で道路、軌道、地方鐵道、自動車、河川、公有水面港灣等に關する關係法規通牒等の監督事項即ち免許、許可、認可、報告の事項を摘記し監督者、監督の範圍、管理者、管理者の處理事項の根據する處を簡明に知り得る編纂方法を採用したるものである従つて新に土木事務を司る者に對しては執務上の手引である、事務熟達者に取りては好同伴である、凡そ土木事業に關しての事務家にも技術家にも、必須的良書であることは敢て多言を要しない一たび本書を繙けば直に知られる、之れ土木事務に従事する方面に推奨するに吝ならざる所以である(定價八十錢但發兌所直賣は送料不要特價七十錢)